

コロナ騒ぎ

愛甲次郎

中國湖北省に端を發せし新型コロナウイルスの騒ぎ收まる所を知らず、遂に小中學校の一齊休校勧告に至る。

小生^{かね}豫て便秘の氣味あり。緊急の事態に至ることもあり、救急車にて搬送せられたることも二度に及ぶ。幸ひその後マグミット剤の投用により小康を得たり。されどその處方には事前の診斷を要すれば三か月に一度は近所の病院に通ふこととなる。ただその待合室たるや定員二十人ほどにして常に満員、黴菌の巢窟の如き様相を呈す。昨今の狀況において最も行くことを欲せざる場所なり。時に家内、マック肺なる奇病を患ひ呼吸困難、酸素ボンベに依存する日常なれば一旦流感罹患せば重篤化を免るること能はず。

一週間ほど前小生當病院に架電、事情説明の上診斷を省略せる處方箋の發行を願ひ出づ。擔當者、それは醫師法違反なれば厚生省の許可を要すと答へ、同省の電話番號を告ぐ。紆余曲折の末厚生省醫事課に辿り着きぬ。同課の擔當官小生の要請を聴取り、緊急事態に對處するため目下政府の基本方針を檢討中にして小生の案件もそれにより對處可能なれば今暫く猶豫せられたしと陳ぶ。

一昨日電視の報道にて政府發表の基本方針により電話診斷により處方箋の發行可能となる由を知る。直ちに該病院に聯絡を取りぬ。擔當者電話口には出づれども、當方の問合せに對しては一切承知せずの一點張りなり。現場の當事者意識の缺如にはただ啞然とするのみなりき。

(令和二年二月二十八日受附)